

「困る」「悩む」「経験で考える力」を！

長い夏休みが終わり、二学期がスタートしました。二学期は、学習発表会やマラソン大会など多くの行事があるともに、一学期までに培ってきた力を発揮し、友達とかわりあいながら、多くの学びを得る時期でもあります。しかし、子供たちは、本当に「自分で自分の行動を決め」たり、「自分の力で課題を解決し」たりしているでしょうか。学校の授業や行事でも、本当に子供が、「したい」を選んで、子供が、「どのようにするか」を考えているでしょうか。現在、このような道を探っているところですが、正直言って十分とは言えません。さて、ご家庭ではどうでしょうか。「学校に遅れてはいけないから」、「もう起きる時間よ。」と、先回りして声をかけていないでしょうか。一年生の最初は、成功体験を積み重ねるということで、このような声かけも大事でしょうが、「失敗する経験」「困る体験」も子供たちの成長に必要なことではないでしょうか。

二学期は、課外に出て、自分の目で見たり体験したりして、多くの「不思議」に出会うことと思います。その不思議の秘密を探る時には、「困る」こともあるでしょう。「悩む」こともあるでしょう。そんな時、「よしっ、とことん調べてみよう。」（問題解決）「とことんやってみよう。」（試行錯誤）と、自分から自分なりの答えを探っていくのではないかと思います。そのために、普段から子供ができることを子供たちから奪ってはいけませんね。「忘れ物を持ってきていただく。」「連絡について、子供が困っていることを気遣い、先に保護者の方が学校へ電話をされる。」など、考えてみていただければ幸いです。昨年も話をさせていただきましたが、宿題については、持ち帰っていないものがあれば、課題ではないものでも、考えてやってみることも子供の力になります。また、忘れ物を学校でどうするか考えるのも力がつく経験です。ほんの少しだけ、子供たちに「困る」「悩む」経験をさせて、自分で考える力を付けてあげましょう。

校長 田丸 栄